

<総会へ向けてのメッセージ1>

◇ シサイ・マレグ (プログラム・オフィサー、FFF エチオピア)

親愛なる支援者の皆様、こんにちは。

私達、FFF エチオピアの事務所スタッフは、80万本の苗木生産、FFFが管理するサイトへの50万本の植林、そして政府、ホテルなどの商業施設、あるいは個人への30万本の苗木の提供を実現するために、目下精力的に活動しています。

私たちは主に2つの地域で活動を行っています。ひとつはラスト郡で、6つのカバレ(行政村)から成り、面積は148ヘクタール。もうひとつはラリベラ・タウンで5つのカバレからなり面積は98ヘクタール。この2つの地域を対象に土壌保全ならびに植林活動を行っているわけです。

今年の活動といたしまして、既に75万本の苗木生産、1万2千7百メートルのテラス建設、165立方メートルの堆肥生産、1,300箇所の小規模集水溝の整備、苗畑の護岸工事等を行いました。さらに、学校支援事業として、カンカニ小学校のサテライトスクールの増築に取り組み、2つの教室と教師用の部屋を増やす事ができました。さらに、生徒が使う椅子と机、黒板も提供いたしました。

そして皆様。不幸にして日本は大地震、大津波そして原子力発電所の事故という未曾有の大災害に見舞われてしまいました。この物的、人的被害の大きさを思うと言葉もありません。私達は日本の皆様、とりわけ直接被害を受けられた支援者の皆様が、一刻も早く生活復旧されまじよう神様に祈ります。

日本の支援者の皆様、是非このラリベラで、また一緒に木を植えましょう。

◇ 藤村 健司 (ふじむら けんじ) フー太郎の森基金 エチオピア事務所代表

支援者の皆様、初めまして。新妻代表からご縁を頂き、今年の2月からエチオピア事務所代表を務めております藤村です。

さて、私は大学卒業以来、これまで20年ほどサラリーマン生活を続けて来た関係で、果たして国際協力NGOの現地事務所代表を務まるものかどうか、この2月には正直不安なスタートを切りました。しかしながら、基金のスタッフならびに支援者の皆様から暖かいサポートを頂いたお陰で、最近になってようやく、手応えめいたものものを感じることができるようになりました。現地事務所のローカルスタッフ達も非常に優秀で、新米事務所代表の至らない点を、本当によくカバーして呉れている点も心強い限りです。

さて、私がラリベラ事務所に赴任してまず驚いたことは、とにかくフー太郎の森基金の存在感が、地元のラリベラではもちろん、少なくともアムハラ州全体で見ても、プランインターナショナルのような、世界的NGOにまったくひけを取らないという点です。これはひとえに、フー太郎の森基金の永年に渡る地道な努力が実を結んだものだと大変感心した次第です。また、東北・関東大震災が発生した際にも、フー太郎の森基金の関係者である無しに関わらず、多くの地元の人達が、お悔やみの言葉を掛けてくれました。

現在は、本当の意味で地域密着型の活動を行って来たフー太郎の森基金で働けることの喜びを毎日かみ締めております。これから、現地事務所は80万本の植林に向けて正念場を迎えることとなりますが、皆様のご支援ならびに現地スタッフの団結力をあれば必ず実現できると信じています。日本に一時帰国の際は、是非皆様と歓談の機会を持てればと願っております。